
▲ 12サインのアスペクトと、各ドミサイル・ルーラーの関係

蠍水星も逆行開始し、自サイトの蠍水星逆行テキストも無事UP。
ということで、続きを。

たまに脱線しつつも。この秋の蠍水星逆行期間に合わせて。
着々とたゆまず。本題への道筋をたどっていきます。

ここで。古典ギリシャ期のアスペクトの概念のおさらいです。
上記くりまる謹製の図版は、ギリシャ期のアスペクトの原義を図にしたものです。

六壬との大きな違い。それはもしかして？。天の家（サイン）と地のハウスを舞台に、
7つの惑星が立役者として行動することなのかな？と思うのですが。

上記図版のように、古来より12サインの居住者（ドミサイル）として、
7つの惑星が割り当てられていました。

言わずとしれた太陽と月のルミナリーズが。それぞれ獅子と蟹とに割り当てられ。
蟹と獅子を基点に、反時計まわりと時計まわりの両方向に、他の惑星である
水星、金星、火星、木星、土星が左右対称に並べられていきます。

お気づきのように、現代のアスペクト「60度、90度、120度、180度」は、
各サインのドミサイル惑星の「性質」を反映しています。

▼以下、参照ページの該当箇所をちょこっと引用します。

「伝統占星術の解説書」ジョセフ・クレイン：著 ARHAT：刊
「A Practical Guide to Traditional Astrology」by JOSEPH CRAIN：ARHAT
P.3 第1章 「伝統的な惑星のディグニティとディスポジション」より

● 「ドミサイル・ルーラー（居住地の支配星）」の3ページ部分より抜粋

次に、惑星がどのように月と太陽とのサインと関係づけられるかに注目してください。牡牛は、蟹に対してセクスタイルです。天秤は獅子に対してセクスタイルです。牡牛と天秤は、どちらも金星と関係します。そのために、セクスタイルのアスペクトは金星（弱目の恩恵／マイナーなベネフィック）の性質を持ちます。蟹からスクエアの位置が牡羊であり、獅子からのスクエアは蠍です。スクエアは火星の性質です。同じ方法を使用して、トラインは木星、オポジションは土星の性質となります。伝統占星術師は、スクエアよりオポジションの方がずっと困難だと考えていたのです！

このことを知って、「ベネフィックとマレフィック」のその意味の違いが、そして、
いわゆる「イージーなアスペクトとディフィカルトなアスペクト」のその違いが、
やっとわかった気がして嬉しかったです。

60度は金星の象徴だからこそ。120度の木星より「弱めの短期的恩恵&幸運」を表わし、120度の木星の方が「より大きく強い発展的な恩恵&幸運」を表わすのですね。

90度が火星の象徴だからこそ。「短期的なトラブル、不運、苦闘」を表わし、180度が土星だからこそ。「もっと長期的な悲しみ、苦しみ、不運」を表わすのですね。

この概念を知った時、妙に納得&胸落ちして。晴れ晴れした気分になったものです。

だって～。どうして何で土星が「暗い、無知、無明」という意味の象徴なのかも、自分はこれでやっとわかったのです。ルミナリーズの「光」から一番はるか彼方、遠くに離れているからなのだと。

もともとの意味って。わかってみると意外にシンプルというか。簡単明解なものなのですね。面白いのです。

#で。ここで再三注目している30度と150度のアバージョンです。

#この図で見ると、30度が水星、150度が土星に対応しています。

こーれが。自分はもうもう。面白くてたまらない！ポイントだなと思うのです。

ということで。上記の図版で12サインと各ドミサイル・ルーラーとを一緒に配列して。「アスペクト」の原義、意味の確認をしました。

ご承知のように。本来の「アスペクト」の概念は、「サインとサインの関係性」を示すものです。

旧パソコン時代より。長文と前置きの長さ&くどさでならした自分なのです。ここでも長々ひっぱってますが。これが自分のスタイルなので、何卒お許しください。

次は。「アスペクト=サインとサインの関係性」を再度確認するために。ASCを基点とした図版を作成して整理しようと思います。

くりまる

2006年10月31日 03:21